

## Book Guide



〈私の大学〉テキスト版2

## サーカスは私の〈大学〉だった

大島幹雄=著



〈新潟空港に着いたアエロフロート機のタラップから、一頭の熊が調教師と一緒におりて来た〉。ポリショイ・サーカスの熊たちとの旅が、ロシア演劇の研究者になろうとしていた著者の運命を大きく変えることになる。サーカスの現場にはまってしまったという著者はやがて、サーカスを売る仕事に惹かれていく。サーカスとの出会いから、サーカス行脚の旅、道化師の世界、インディアンロープの謎、極北のサーカス団、海を渡った日本のサーカス芸人のこと等々、サーカス生活30年を振り返る。エピソードも面白く読者をあきさせない。左の写真は、「カバを調教するローマ」。著者とローマ、ハーリック兄弟の「サーカス三兄弟」の交流も感動的だ。著者は1990年に『サーカスと革命』を上梓している。サーカス学を立ちあげることが私の仕事であるという著者は目下、サーカス学専門の雑誌をつくろうと策を練っている。